

『子どもに本を届ける人のための講座』

【大竹英洋氏 著作リスト】

『そして、ぼくは旅に出た。』

～北米ノースウッズにオオカミを探して～』

講師：大竹英洋氏

【プログラム内容】

- 10：00 宇都宮市立中央図書館館長
赤石澤めぐみ 挨拶
宇都宮子どもの本連絡会会長
佐藤麻矢 挨拶
- 10：05 講師 大竹英洋氏プロフィール紹介（会長）
- 10：10 大竹英洋氏 挨拶
- 10：15 室内暗転 プロジェクター使用
写真と共に大竹氏子供時代～大学生までのお話
- 10：30 星野道夫（写真家）の写真を見て感動したお話
- 10：35 『ブラザーウルフ』の作者ジム・ブランデンバ
ーグ氏に会いに行くお話
- 10：50 ノースウッズの春～冬の様子を写真と共に説明
- 11：30 へラジカの呼び笛を吹く
- 11：35 大竹氏オオカミの遠吠えをする
『もりはみている』の読み聞かせ
- 11：40 質疑応答
- 12：00 終了

【講座の様子】

室内を暗くしてスライドを見ながら大竹先生のお話が始まった。先生の高校時代は渋谷のスクランブル交差点を見ながら通学し、そして大学生になり、いつのまにかワンダーフォーゲル部に入り沢登りを始めた。電気・水道のない自然の中で過ごすうちに都会の生活とはなんだろうかと考えるようになったと話していた。

大学4年の時、写真家の星野道夫氏の写真を見て感動し、写真のテーマやフィールドを考えるようになり、オオカミの夢に導かれるように『ブラザーウルフ』の作者、写真家のジム・ブランデンバーク氏に弟子入りしたくアメリカまで行き、最終的にカヌーでブランデンバーク氏に会いに行った話をお聞きした。

大竹先生のフィールドワークのノースウッズ（北の森）は日本がすっぽり入ってしまう大きさであるが、南に北にと精力的に写真撮影に挑んでいる。撮影時の様子を写真と共に丁寧に解説して下さった。ノースウッズの春から冬にかけての動物たちの様子はとてもかわいらしくもあり、自然と共に生きることに真剣で輝きを放っていた。また、山火事は、自然にとって大切なことで、一度リセットして新しい木々の命を育み再生することによって、生息する動物たちもまた変化すると話していたのが印象的だった。

お話の間には、へラジカの呼び笛を吹いたり、オオカミの遠吠えを先生ご自身でやって下さったり、動物たちの動画を見せていただいたりと盛りだくさんだった。なかでもオオカミの動画は貴重だった。

スライドを通して私たちがなかなか目にすることができない大自然を大竹先生は提供してくれる。それを子どもたちに豊かな自然、豊かな地球を紹介していければと思う。今まさに地球温暖化対策を地球規模で考えているが、大竹先生の発信する本はそれを考えさせる本であり、子どもたちに手渡していきたい本である。

講演の最後には、大竹先生ご自身で『もりはみている』の読み聞かせをして下さり、いかに自然が大好きで愛しているか心に響く時間だった。この感動を子どもたちに届けていきたいと思った。

題名	出版社
*写真絵本	
もりのどうぶつ	福音館書店
もりはみている	福音館書店
ノースウッズの森で	福音館書店
春をさがして カヌーの旅	福音館書店
森のおく 湖のほとり ノースウッズを旅して	福音館書店
カリブーの足音	福音館書店
*一般	
そして、ぼくは旅に出た。 はじまりの森 ノースウッズ	あすなろ 書房
そして、ぼくは旅に出た。 はじまりの森 ノースウッズ	文藝春秋
*写真集	
ノースウッズ 生命を与える大地	クレヴィス

新型コロナ感染対策として、検温、アルコール消毒、健康観察カード記入、マスク着用の徹底をした